

令和元年度 日之影町立宮水小学校 学校評価

○「評価」について、目標の達成度に基づき、次の4段階で評価を行う。  
 4：期待以上、3：期待どおり、2：やや期待を下回る、1：改善が必要  
 ○「評価者」…「第一次」：学校による自己評価、「第二次」：保護者評価、「第三次」：教育懇話会委員評価

評価項目	達成目標と方策		第一次評価者所見		評価		
					第一次	第二次	第三次
学力向上	1	学習の基盤となる学習態度等の指導を日常的に徹底し、基本的な学習習慣の確立を図る。	学校での徹底と合わせて保護者と連携して家庭学習を確認したり、励ましたりといった取組を行った。学習習慣の定着については今後も継続して取り組む必要がある。		3	3	3
	2	主体的・対話的で深い学びを軸とした授業改善に取り組み、思考力、判断力、表現力等を育成する。	授業に対話の場面を積極的に取り入れた。友だちとの意見交換が活発化してきている。思考の質については対話の場を通してさらに深めていく必要がある。		3	3	3
	3	読み聞かせや学校図書司書と連携を図った読書活動を推進し、思考力や読解力の向上を図る。	町図書活動推進員の活用や読書貯金により、読書量が増えている。個人目標達成児童は2学期56%である。推進員と連携した取組の充実を今後更に図っていく。		3	3	3
	4	各種テスト（全国・県学力調査、CRT）の分析結果を活用し、日々の授業における授業改善を図る。	全国学力調査等の全職員での分析とその結果の共通理解を図り校内研究に取り組んできた。年度末には、「学びの確認」の充実を図っていく。		3	／	3
生徒指導	1	時と場に応じたあいさつや会釈を身に付けさせるために一層の指導の徹底を図る。	「みんなに会釈」、「地域の方への朝のあいさつ運動」を通して、あいさつの活性化に取り組んだ。個人差もあり、今後も継続して取り組む必要がある。		3	3	3
	2	学級経営の充実や教育相談の実施を通して、望ましい人間関係の醸成を図る。	アンケート、教育相談を実施し、いじめ等の早期発見に努めることができた。また、全職員共通理解のもと対応にあたることもできた。今後も児童の様子を見守っていく。		4	3	3
	3	児童会活動や学校行事を通して主体的に活動できる力を育成する。	学校行事等において司会等を児童に任せることにより主体的な意識を高めるようにした。委員会活動等で児童が企画する場面が少しずつ増えてきている。		3	／	3
	4	全職員の共通理解・共通実践を図り、学級における日常指導を充実させ、基本的な生活習慣の確立を図る。	基本的な生活習慣について「はぐくみ委員会」を中心に職員間で共通理解を図りながら日常指導を充実させることができた。今後も共通理解共通実践を図り、全職員一丸となって取り組んでいく。		3	／	3
体力向上、安全指導	1	主体的・対話的な学びを通した体育科学習と体育タイムを充実させ、体力の向上を図る。	体育科学習においては「話し合い」、体育タイムにおいては、「縦わり班での活動」を積極的に取り入れた。意欲的に取り組む児童の姿が増えている。今後は、体力の向上につながる取組を工夫する必要がある。		3	／	3
	2	体力向上プランを基盤として、ラジオ体操やなわとび運動、外遊びを推進し、運動の日常化と継続化を図る。	体育的行事と関連させながら、持久走、なわとび運動等に取り組んだ。昼休み等に自主的に練習する児童の姿が見られた。声かけ等を行い、継続化に力を入れていく。		3	3	3
	3	養護教諭や栄養教諭と連携した日常指導等を行い、健康的な生活習慣や望ましい食習慣を育成する。	個人の実態調査に応じて生活習慣、食習慣について個別指導を行った。ゲームやテレビの視聴時間、睡眠時間について改善がみられる児童が増えてきている。		3	3	3
	4	日常的に立腰指導を行い、正しい姿勢の習慣化を図る。	日々の声かけにより、学習中の立腰については意識する児童が増えてきている。食事中については今後も意識を高める指導を継続していく必要がある。		2	3	3
家庭・地域との連携	1	地域の人的・物的資源を活用した「総合的な学習の時間」の充実を図る。	地域の人材等を積極的に取り入れた学習を進めることができた。さらに地域の方と連携して人材を整理することもできた。今後は、人材の活用を充実させることに取り組んでいく。		3	3	3
	2	家庭・地域と連携した読み聞かせの一層の充実を図る。	年間をとおして保護者、地域の方による朝の読み聞かせを行うことができた。今後は、主体的な読みにつながる読書指導を充実させていく必要がある。		3	3	3
	3	めざす児童像や各月の重点指導目標を家庭と共有し、連携した取組で目標達成を目指す。	PTA総会を活用して目標を保護者と共有するように努めることができた。今後も学習習慣、あいさつについて、家庭と連携した取組を継続して行っていく。		3	3	3
	4	命の教育週間（7月）では、学校参観日に町保健センター等と連携した道徳の授業を位置付け、命の教育の充実を図る。	関係機関と連携を図りながら命の教育を学校参観日に位置付けて行うことができた。来年度についても早期に連携を図り、更に命の教育の充実を図るようにする。		4	4	4
	5	全校一斉懇談会を実施し、学校と家庭が連携を図りながら、児童のあいさつの向上を目指す。	全校一斉懇談会において保護者に家庭・地域でのあいさつの向上について啓発を図ることができた。保護者の意識も高まっており、継続した指導が今後必要である。		4	3	3